



歴史総合 レビュー

2024年4月

「歴史総合」が始まって2年あまり…
こんなお悩みが寄せられています。

この冊子では、清水書院の教科書を使ってくださっている先生方のお考え・実際の授業の様子を紹介しながら、これらの解決や授業・教材づくりに役立つ情報をご紹介します。

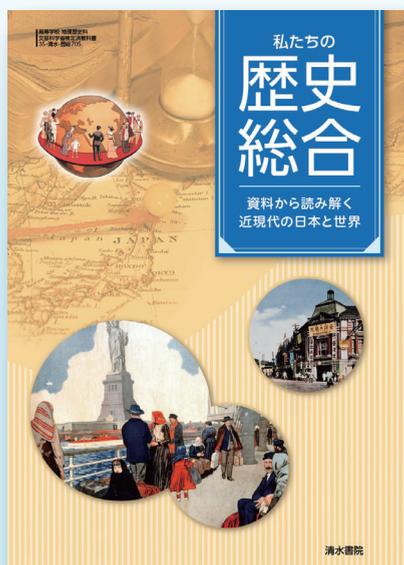
どうしよう？

- 内容が多くて2単位で終わらない
- 教科書の内容が薄くて、試験問題・評価課題が作成しにくい
- 探究的な学びを取り入れると、授業の進みが悪くなってしまう
- 資料からの読み取りを重視すると、学習する知識が足りない

清水書院の教科書を採択している先生が
どのように向き合っているか…



中面で紹介！



清水書院 歴史総合教科書『私たちの歴史総合』 歴総 705

《 精選された問いと資料から探究できる教科書》

問いと資料をメインに据えた紙面で、
歴史的な見方・考え方から課題をとらえ、解決する力を養えます。

教科書の詳細は内容解説資料（パンフレット）や
清水書院 WEB サイトをぜひご覧ください！

<https://www.shimizushoin.co.jp/>



パンフレットや副教材の見本送付をご希望の方は、清水書院 WEB サイトまたは裏面のお問い合わせ先までお願いします。

清水書院の教科書を使って授業をしている先生に、教科書採択の理由、教科書・教材の活用方法、授業での工夫を伺いました。多くの先生方から寄せられる歴史総合のお悩みについて、どのように向き合っているのか、実際の教材・資料も掲載して紹介します。

CASE.1

教科書採択の理由 新課程1年目だった2022年（令和4年）度、網羅的な教科書を使用し、初めて歴史総合を1年間教えました。1・2学期では探究的な活動を入れつつ授業をしたものの、3学期になり駆け足で進めた結果、第二次世界大戦の手前までしか終わりませんでした。授業担当者として「これは厳しい」と思い、地歴公民科の先生方とも相談し、思い切って清水書院の『私たちの歴史総合』を採択しました。

授業の展開 本校では教科書に加え、準拠ノートも採択しているので、次のような流れで授業を行っています。

- ① 前時の準拠ノート問題の解説 → ② 準拠ノートの穴埋め語句を中心に講義 → ③ 探究的な活動（毎時間ではない）
→ ④ 準拠ノートの本時の問題を宿題にする

学校data

- （履）1年次：歴総 2年次：日探/世探（文系）
3年次：日探/世探、日探演/世探演（文系）
- （持）3クラス/8クラス中（2023年度）
- （端）生徒購入タブレット、Microsoftアカウント
- （進）国立・私立四大（一般入試）が70%程度

Q 内容が多くて2単位で終わらない

▶ 探究的な活動と講義にバランスよく取り組める

教科書で扱う内容が多いと、生徒は日本史を学習している間に世界史の背景を忘れてしまい、その逆も然り、という状態になりました。うまく両者が絡む範囲を効率的に教えたいと思いますが、そういった内容ばかりではありません。その点、清水書院の教科書は、用語が精選されており、日本史と世界史を短いスパンで扱えるので、生徒も流れや背景を意識しやすいです。加えて、見開きで完結する小単元構成や、1ページ分以上にわたり資料が載っており、「探究しよう」という問いを考える項目も資料とリンクしているので、授業内に取り上げやすいです。2023年度は3学期から第4編「グローバル化と私たち」から授業を開始でき

る進捗で進めています。これを読むと「内容を深くやらなくて大丈夫か」とお考えになるとと思います。しかし、共通テストの試行問題や模試の問題などを見ても、語句の細かさよりも思考的な問題や資料の読み取りの力が重視されている傾向にあります。内容面では、清水書院の教科書だけでは確かに心許ないですが、少しのフォローアップで内容面もカバーできます。何より生徒主体の探究的な活動も入れる時間が取れます。探究と講義のバランスが取れる点で、使いやすい教科書だと言えます。

年間授業計画



Q 教科書の内容が薄くて、試験問題・評価課題が作成しにくい

▶ 試験範囲を確保でき、定期試験問題データが活用できる

私は2年連続で歴史総合を担当してみて、学習事項が多い方が試験問題を作りづらかったです。扱う内容の深さがあるため進捗も悪いので、狭い範囲で観点別かつ自分の専門外の内容も含んだ試験問題を作ることが大変でした。その点今は、全クラスを私含む2人で交代で共通問題を作成（試験ごとに交代で80点分の共通問題を作成、20点分はそれぞれの専門を活かした問題）しているので負担も少ないです。進捗が良好なので試験範囲も十分に確保できます。また、負担が少なくなる点では、清水書院の定期試験問題データ（「デジタル指導書」収録）も大変助かっています。本校では3観点の評価は、「知識・技能」「思考・判断・表現」の2観点は定期考査、「主体的に学習に取り組む態度」は、それぞれ担当者ごとに課すワークシート、ノート提出や

webレポートの提出とその内容を評価しています。これから、

模試の過去問や問題集など、試験作成の参考になるツールは増えていくはずなので、清水書院の教科書を使用したことで、問題作成や評価に関して苦労することは少ないと思います。

2 主題学習をしている4名の生徒の資料と考察メモをもとに、後の問いに答えよ。
＜Aさんの主題学習＞

資料1 第一次世界大戦後のヨーロッパへの変遷を考察した文章

自信をほぼ失ってしまったヨーロッパは、外からの支援を期待している。一つは X からの。今一つは Y からの支援である。しかしその期待は甘い。ヨーロッパにとっては致命的となる危機をほらんでいる。…… X はヨーロッパの征服を欲し、 Y はヨーロッパを買い取るつもりである。な。《おかしな戦争》（シ・ヨーロッパ）

資料2 各国の製造業生産指数の推移（1913年=100）

Aさんの考察メモ

第一次世界大戦後の変化

- ヨーロッパの経済
- X と Y が台頭
- X → 計画経済のもとで工業化
- Y → ヨロッパへの借款やドイツ支援で債務国から債権国へ変わる
- ヨロッパ経済は Y が支えている

問1 Aさんの資料1・2 および考察メモの空欄 X、 Y に適する国の名前と、Aさんの主題学習のテーマの組み合わせとして正しいものを1～4から一つ選べ。

1 アメリカ ヨーロッパ (ソ連) テーマー世界恐慌前後のヨーロッパ経済へのアメリカの影響

2 ヨーロッパ (ソ連) アメリカ テーマー世界恐慌前後のヨーロッパ経済へのアメリカの影響

3 アメリカ ヨーロッパ (ソ連) テーマーレーニンによる一国社会主義のヨーロッパへの影響

4 ヨーロッパ (ソ連) アメリカ テーマーレーニンによる一国社会主義のヨーロッパへの影響

問2 資料2において、 Xの国が1929年の出来事に影響を受けずに成長している理由として、 Zで展開されているある経済体制が挙げられるが、それを何と云うか。理由も併せて答えよ。

定期試験問題（一回分）





この見開きの  マークがついている資料は、左のコードから清水書院 WEB サイト (<https://smz.ai/rekishisougoushiryou/>) にアクセスして、閲覧・ダウンロードすることができます。

※資料のダウンロードには、ご勤務校とお名前のご登録が必要です。

学校data 記号の説明

- (履) 歴史科目のカリキュラム
- (持) 歴史総合の持ちクラス数 (2023 年度)
- (端) 一人一台端末、ICT の状況
- (進) 進学先の概要

CASE.2

教科書採択の理由

教科書に掲載されている史資料が自分の構想する授業に合致したものが多く、その上すべての史資料に対応する問いが用意されているので使いやすいからです。また、史資料や本文の情報量が精選されているため、読解力に難のある生徒にとっても扱いやすい印象を受けたいからです。

授業の展開

各授業に教員がメインの問いを設定し、さらにその問いを生徒が考えるために2~3つのサブの問いを設け、一連の問いを考察するために史資料読解を行っています。その際は、課題に沿ってペアワークで史資料を読解し、お互いに説明し合う生徒の言語活動を設定しています。また、知識構成型ジグソー法^{※1}で授業を行うこともあります。

※1「知識構成型ジグソー法」については、教育環境デザイン研究所 CoREF ウェブサイト (<https://ni-corefor.jp/archives/5515>) 参照。

学校data

- (履) 1 年次：歴総 2 年次：日探・世探 (文系)
3 年次：日探・世探 (文系)
- (持) 4 クラス / 6 クラス中 (2023 年度)
- (端) 生徒購入 iPad, Microsoft アカウント,
Google アカウント, ロイノートアカウント
- (進) 一般入試・総合型選抜・学校推薦型選抜と様々



探究的な学びを取り入れると、授業の進みが悪くなってしまふ

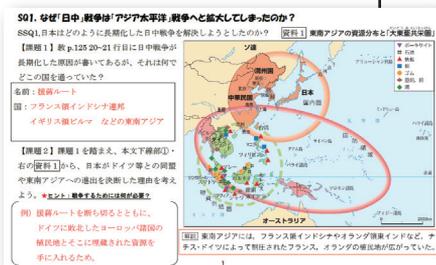
単元の構造を意識して計画を立てることで、全体の見通しをつけられる

前述したように、各授業ではメインの問いを設定し、それを各サブの問いと史資料をもとに生徒が探究する形で授業をしています。Word の A4 原稿サイズで見開き 1 ページ (A3 サイズ) に納めれば、プリント 1 枚をおおよそ 1 回の授業で実施することが可能です。

だからこそ、教科書本文も「プリントに記載しない資料の一つ」と位置付けて、生徒が自分たちだけで読解できる程よい難易度・情報量である必要があるため、清水書院の教科書は使いやすい印象を受けました。

従来の A/B 科目では私も内容の網羅的な学習になってしまいましたが、歴史総合はテーマ史のように単元を貫いて学習することが可能な科目です。授業者の授業理論・授業

目標や生徒に身につけさせたい能力から逆算して、各単元を貫く問いを設定し、各授業のメインの問いやサブの問いをそれにつながるように構造的に配置することで、生徒が絶えず問いを考える探究的な学びが可能だと言えます。教員の授業理論や授業目標等に基づく思考の流れが、そのままプリントに反映できるという点では、各学校現場の生徒の実態に合わせた最適解があるのだと思っています。



授業プリント



資料からの読み取りを重視すると、学習する知識が足りない

主体的に学ぶ意欲を引き出せば、生徒自ら知識を獲得できる

穴埋めプリントで授業を進めていた時に比べて、史資料読解の方が、歴史科目に苦手意識のある生徒にとっては、クラスメートとの対話を通して納得感を持ちながら学習できる機会が増えたこともあり、以前より前向きに取り組んでくれている印象があります。やはり、歴史の大まかな見取り図や歴史と現代社会とのつながりを生徒が見いだせないまま、細かい網羅的な知識の学習に終始してしまうとモチベーションは高まりにくいと言えます。

しかし、プリントに掲載する史資料が情報過多になってしまうと、どうしても生徒の思考が追い付かず、ペアワークなども活性化せず授業が停滞してしまうケースがありました。ただ、授業アンケートには「教員の説明を受けるだけでなく、ペアやグループで意見や解釈を共有することで

自分の学びにつながった」という趣旨の回答が見られました。また、メインの問いへの解答を覗いていても、対話するなかでの史資料読解を通じて知識を獲得し、歴史的背景や因果関係を考察できていた生徒が多かった印象があります。

今後、生徒に問いを立てさせ、テーマを設定させる課題探究学習を歴史総合のなかで実施したいと考えていますが、普段の授業を通して成功体験を積み重ねることで、生徒の自立した学習も可能になるのだと思います。そうすれば、生徒が自ら思考するために必要な知識をかえて主体的に獲得していってくれるのではないのでしょうか。生徒の手に「学び」をゆだねることの可能性を信じて、今後も試行錯誤していきたいと思っています。

教科書執筆者から

「歴史」を“総合”するって、どういうこと？」——。いざ、教科書を執筆する立場になってから、この問いに向き合ってきました。それは、自分一人のみならず、日々学校現場で生徒とともに気づき、考え、行動している執筆者の先生方との協働作業でもありました。従来の世界史 A と日本史 A の切り貼りにだけは絶対に成り下がりがたくないという一心で、生徒に寄り添った目線から歴史総合の教科書づくりに取り組んだ私たちの思いを、是非この紙面から感じてもらえれば幸いです。とは言え、自分自身、実際に授業をやってみて感じたことは、中学校までの学びを踏まえた「足場かけ」の難しさでした。だからこそ、文字資料はもちろん、風刺画などの図像資料も活用して「世界の中の日本」をしっかりとイメージできるような紙面づくりを心掛けました。また、本文全体の文章量やそこに盛り込む「知識」も1時間の授業に収まるよう常に現場の目線を意識しながら、見開きページで1単元という形を崩さず、年間2単元でじっくり生徒が向き合える内容に精選を図りました。これで満足という訳ではなく、この教科書を使っ

て授業実践を重ねる先生方との対話の中で得たものを、今後も紙面づくりに積極的に生かしていきたいです。是非、よりよい歴史総合の授業のあり方の探究を、多くの先生方とともにやっていければと、執筆者の一人として切に願っています。

授業づくりに役立つ本

●佐々木雄太『国際政治史 世界戦争の時代から21世紀へ』名古屋大学出版会 2011年

20世紀の歴史に関する左ページの本文に対して、その論拠となる様々な資料が右側に配置されるレイアウトも見やすく、資料は授業でも活用できそうなものがたくさん掲載されていてお勧めです。

●坂野潤治『日本近代史』ちくま新書 2012年

世界史を専門として授業をしてきた私にとって、やはり日本史的な内容部分には、授業を実践する上でやや苦手意識を持っていました。そんな中で、もう一度日本の近代史を学び直したい自分にとって、この本はとても腑に落ちる部分が多く、参考になりました。

先生方に読んでいただきたい本



〈歴史総合〉の初年度を経験し、実際に取り組んだ教員が授業実践と評価のあり方を振り返り検証する“リアルな”試行錯誤の様子、〈歴史総合〉への思いをまとめた記録

- 大項目 A～D の実践をまんべんなく、それぞれ複数掲載
- 多様な課題設定（問い）や題材、授業手法の授業実践と評価
- 大学入学共通テスト・試作問題の分析など多彩なコラム

▼ 歴史教育書



▼ つなぐ世界史 1～3



▼ 歴史総合パートナーズ ①～⑦



▼ 近刊予定

歴史総合の授業で
感染症を扱うための
高校教員向け教育書

2024年夏
刊行予定!



学びと教育の未来をめざして
清水書院

- 本社 〒102-0072 東京都千代田区飯田橋 3-11-6 清水書院サービス第2ビル TEL(代表): 03-5213-7151
- 大阪支社 〒553-0003 大阪府大阪市福島区福島 2-10-19-408号 TEL: 06-6131-6226
- 札幌営業所 〒065-0022 北海道札幌市東区北22条東3丁目 1-35-211 TEL: 011-788-6861
- 九州出張所 〒818-0023 福岡県筑紫野市大字若江 192-4-B101 TEL: 090-1031-7366